

〔研究ノート〕

平成29年度教育改革支援制度報告 外国語学習支援のためのラーニング・コモンズとしての図書館の活用

Utilization of Libraries as Learning Centers to Support Foreign Language Learning

中村学園大学

池田 祐子・津田 晶子・トム・ケイトン
スコット・マキネス・高田 和則

1. 活動の概要

本取組の目的は、国内の大学の図書館や外国語センターにおける先進事例の調査に基づき、学生の外国語学習（英語および第二外国語）を支援するラーニング・コモンズ¹として、本学図書館の現有の資源を活用し、学生の外国語のアクティブラーニングを支援することである。

図書館イベントの実施や図書館の資源有効活用には、スチューデントジョブ制度を積極的に活用し、FD・SDの資料として、調査結果を本報告書にまとめる。

【現状の分析】

学生の外国語のアクティブラーニングの場として、図書館が有効活用されていない。

【現状の課題を克服するための手法】

- 1) 他大学の図書館・外国語センターにおける外国語学習支援の先進事例視察と教員へのヒアリング
- 2) 他大学の図書館活動／イベントの情報収集
- 3) 本学の第二外国語教員や語学カフェスタッフに対する外国語学習教材に関する聞き取り調査

【達成目標】

- 1) 学生を活用した図書館イベントの実施
- 2) ポスター、POPの作成、外国語の学習コーナー
- 3) 多読・多聴ライブラリーの設置

- 4) FD・SDにおける調査報告

- 5) 学内（管財課など）への情報提供

【目標を達成した時の具体的な効果】

- 1) 学生の授業外での外国語学習時間の増加
- 2) 資格試験の合格率やスコアの向上
- 3) 図書館利用者の増加
- 4) 図書館の外国語学習・国際交流書籍・DVDの充実
- 5) オープンキャンパスでのPR

2. 他大学の取組

事例1 西南学院大学図書館

（池田祐子、津田晶子）

平成29年5月13日

（司書の小川ゆきえ様の案内で館内見学）

【レイアウト】

- 1) サイレントゾーンと、学生が談話できるゾーン、および飲食ができるゾーンを分けることで、学生が図書館でディスカッションをするスペースを設けている。
- 2) 外国語教材については、多読用の書籍、英語／フランス語に翻訳された漫画、DVD視聴コーナー、CNN視聴コーナー。
- 3) 2つのコンピュータールームのほか、学生が館内で使用できるコンピュータ、タブレットを貸し出し。
- 4) 館内のアクティブラーニングができる場と

して、グループで利用できるラーニングスペースを準備。電子黒板、壁面全部がホワイトボード。

5) 教員および学部のおすすめ図書コーナーの設置。

【学生の活用】

- 1) 面接を経て選ばれた学生スタッフがコモンエリアに常駐。学生からの学習相談（文献の探し方、論文の書き方など）に対応。

【SNSなどの情報発信】

- 1) 図書館発信のSNSを館内のスクリーンに映写。

【外国語学習関係のイベント】

- 1) 現在のところ、図書館による外国語学習サポートは特にないが、同じ敷地内に、言語教育センターがあり、ここで、DVD視聴ができ、外国語学習サポートが受けられる。

【カフェ】

- 1) 学外の来訪者も利用できるカフェがあり、軽食、打ち合わせ可。非常勤講師を含め、西南学院大学関係者は飲食に割引が受けられる（なお、図書館は、卒業生を除き、一般には公開していない）。

事例2 福岡大学図書館（池田祐子）

平成29年6月26日

（中央図書館を視察）

- 1) 1F エントランスに「選書ツアー」紹介コーナーを設置。学生が選書した図書の一部が飾られている。年に一度、学生による選書ツアーを行っており（平成28年度は19名が参加し、計306冊をMARUZEN 博多店で選書）、本の横に学生による紹介文が手書きのポップで貼られている。ヒットした小説から学生の専攻まで、ジャンルは多岐にわたる。映画化された作品は、映画のポスターが小さくプリントされて貼られているなど、工夫が見られる。また、選書ツアーの様子も模造紙に写真を貼って紹介。なお、視察当時（平成29年度）、選書メンバー募集チラシが置かれ、電光掲示

板でも宣伝している。

- 2) 各階のエレベーター前に、テーマ別に図書が置かれている。「あなたは猫派？犬派？犬本、猫本集めました」「文章力」「ミステリー特集」「あなたの知らない図鑑の世界」など。ポップや台にも絵や文字が描かれ、創意工夫が見られる。
- 3) 学生が飲み物を持ち込めるスペースを設けている。
- 4) 外国語教材に関しては、多読用書籍が12棚を占め、様々な出版社の多読教材を貸借可能。その他、TOEIC等の英語資格対策問題集、英語の絵本など、語学コーナーが充実している。
- 5) 視聴覚教材コーナーでは、主要な外国映画や海外ドラマ等の視聴が出来る。
- 6) 福大生ステップアッププログラムの一環として、「オーサービジット」を開催。オーサービジットとは、作家が福岡大学を訪問し、講演会や意見交換会などを通して、参加者が作家の生の声を聞くことができる企画。
- 7) 「読書会」を開催。1冊の本を、講師と学部を超えた学生同士で読みあう企画。講師は学内の教員または学外から招聘。
- 8) 図書館のサイトに「ブックレビュー」のページがある。本の感想を読むことができる。
- 9) 図書館サイトに「レポート作成ガイド」があり、図書館を利用したことのない学生がバーチャルツアーを体感できる。また、資料の探し方をサポートしたり、課題テーマの設定・事前調査の仕方をナビゲートしたり、文献入手の方法を説明したりと、ウェブ上で学生をサポートしている。

事例3 武庫川女子大学図書館（津田晶子）

平成29年6月27日、28日

（キャンパスツアー、事前打ち合わせ、英文学部の米田みか教授のご案内で、図書館、情報処理室、LLルームを見学。インターナシヨナ

ルプラザ、ライティングプラザのイベントへの参加。)

【レイアウト】

- 1) 1Fのカフェで書籍、雑誌などを配架。学生が食事をしながら、読書できるスペースを設けている。外国語教材については、多読用の書籍、英語に翻訳された漫画、DVD 視聴コーナー、CNN 視聴スクリーン（大統領選時にリアルタイムで上映、講師の説明付き。メディアに取り上げられた）がある。
- 2) 外国人（米国キャンパスから出講中のアメリカ人女性）とのフリーカンバセーション用のインターナショナルプラザ（本学の語学カフェ）としての部屋。電子黒板付き。予約制で事前にトピックを連絡。実施時は職員がサポート。
- 3) 外国人インストラクターによるライティングプラザ（英語全般のライティングに関するサポート）の設置。予約制。
- 4) 学部ごとの資格対策に特化したフロアー（語学を含む）。同フロアー内に各種資格サポート窓口の設置（図書館内で資格試験の申し込みができる）。
- 5) たたみのスペース。
- 6) 新聞の書評コーナーと本の陳列。
- 7) 教員の著作のコーナーの設置。

【イベント】

- 1) ビブリオバトル（全学イベントと、日本語学科の宿泊研修での導入教育がある）。
- 2) 貸し出し冊数で学園グッズがもらえるスタンプラリー。

【SNS などの情報発信】

- 1) 図書館発信の SNS。

【外国語学習関係のイベント】

- 1) 図書館とは別のビルの LL コーナーに、英語教材の設置、DVD 視聴ブース、Skype による英会話ブース（予約制。無料。TOEIC、TOEFL、実用英検対策、ライティング指導）。※ DVD は学生の人気投票の結果を考慮しながら購入。

事例 4

近畿大学アカデミックシアター、英語村視察（津田晶子）

平成29年6月29日

中央図書館事務部津灘直和課長補佐のご案内で、アカデミックシアターと英語村を視察。

【レイアウト】

- 1) 松岡正剛氏のプロデュースによる図書館。学生がディスカッションできるよう、私語を禁止していない。文理融合型のユニークな本の配列。1つのテーマに対して、1冊のキーとなる本を中心に置き、その周りに本を並べている。偶然の本との出会いを演出している一方、「本が探しにくい」、「返却場所が分からない」という欠点がある。
- 2) 漫画についても、「キャリア」「食」など、テーマごとに配架しており、漫画、文庫、新書、オブジェを一緒に棚に並べている。
- 3) 館内に関西でチェーン展開しているカフェと CNN カフェの2軒がある。
- 4) 図書館内に産学連携で共同研究できるコーナーが複数ある他、近畿大学発の商品を陳列している。
- 5) 外国語映画の DVD はブース（予約制）での視聴の他、DVD プレイヤーを貸し出すことで館内のどこでも視聴可能。
- 6) アカデミックシアターと同じビルに語学教育センター（無料の外国語教室）や留学情報コーナーがある。語学教育センターに多読のコーナーを設置しており、毎日500冊の貸し出しがある。これは、英語の授業で多読を課題としている科目があるためである。多読（Extensive Reading）については、付録（pp. 119-121）を参照。

【学生の活用】

- 1) ボランティア学生が書棚の黒板に本の紹介を書き込んだり、図書館イベントを企画した

りしている。

- 2) 大学院生がアドバイザーとして午後から常駐。

【導入教育】

- 1) 全学部学生の1年次に図書館教育を1回、実施。

【SNSなどの情報発信】

- 1) 図書館発信の情報を館内のスクリーンに映写。アカデミックシアターのアプリ有り。

【英語村】

- 1) 外国人常駐で国際交流の場を提供。パスポートを発行し、全学部の学生に1年4回の訪問を義務づけている。楽器やボードゲーム、スクリーンを設置。毎日、ディスカッションのテーマを決めて、配布している他、英語で料理、実験などのイベントも実施。

事例5

神田外国語大学図書館（津田晶子）

平成29年11月2日

【図書館】

- 1) 外国語教材については、多読用の書籍、各国語に翻訳された漫画、DVD視聴コーナーがある。
- 2) 毛布の貸し出し。
- 3) 教員の著書のコーナー。

＊この図書館は2009年度のGood Design Awardを受賞している。幕張キャンパス内に、これからの大学図書館像とされるラーニング・コモンズ（従来の図書館に新機能とサービスを加えた複合施設）として、MULC（多言語コミュニケーションセンター）、新図書館、セミナールーム、ホール、カフェを備え、新たな学習交流拠点として整備した。多彩な複合化を活かし「環境・空間・人の活動」が見えることで学習意欲やアクティビティを向上させたいと考え、人を誘う曲線と透明性や連続性を活かしたデザインを展開した。自由に登れる芝生の丘を創り、多彩な環境配慮デ

ザインを展開すると共に、MULCでは言語と歴史文化が学べる各国の街並や生活シーンを再現し、地球環境と歴史文化のサステナブルに努めた。

（出典：Good Design Award 公式ホームページ <http://www.g-mark.org/award/describe/35687>）

【学生の活用】

- 1) 学生同士によるピアサポート（学内アルバイトによるチューター制度）

【カフェ】

- 1) 図書館の屋上がカフェになっている。

【SALC】

- 1) ライティングエリアでは、英文ライティングの指導を受けることができる。

＊なお、栄養科学部岩本教授グループ、ハラル研究会によるプロジェクト研究の「ハラルミールを提供する学食」を視察する際に、併せて、図書館やラーニング・コモンズを視察したものである。

3. 図書館 洋書・洋画プレゼンテーションコンテスト

【実施要領】平成29年10月7日、「洋書・洋画プレゼンテーションコンテスト」（於：4304教室）を開催。このイベントのねらいは、学生が本学図書館所蔵のDVDや洋書に親しみ、語学教材として利用するきっかけとなることにある。また、洋書や洋画を通じて英語に親しむだけでなく、プレゼンテーションのスキルを磨く機会とする。

コンテストは以下の流れで実施した。

- 1) 学生は図書館所蔵の洋書（絵本、漫画含む）または洋画（アニメーション含む）を1作品選び、夏季休暇中に感想文（A4一枚）を書いて、図書館の応募箱に投函する。
- 2) 一次選考として、応募者の中から8名を選抜する。
- 3) 候補者8名は10月7日のプレゼンテーショ

ンコンテストに、プレゼンターとして参加する。プレゼンターは、日本語で5分間、英語の本または映画について紹介する。発表中はスクリーンに本の表紙・タイトル・発表者名を表示する。

- 4) 学生は読んでみたいと思った本、または見てみたいと思った映画に投票する。1位から3位を発表し、図書カードを授与する。

【考察】

夏休みを利用して読書感想文に取り組めるよう、応募期間は7月20日から9月15日とした。感想文を提出したのは、直接参加を呼びかけたゼミ生や、参加が授業成績にポイントとして加点される学生たちであった。今後このようなイベントの参加者を増やすためには、学期半ばから告知をし、より多くのクラスでコンテスト参加を成績の一部として加点するなど、工夫が必要である。

ゼミ活動の一環として参加した流通科学部2年生には、図書館サイトの電子ブック（eBook）から *Macmillan Readers* (Level 1ーLevel 6) の本を選ぶように指定した。これは小説等を平易な英語で書き直したシリーズで、多読教材として広く知られている。英語学習における多読（付録を参照）は、無理のないレベルの英文を楽しく読みながら、語彙力や自然な表現力が身につくことが期待される。その効果はTOEIC等の検定試験においても実証されており、本イベントが多読へのきっかけとなるように、一部の学生に実験的に課題図書として与えたものである。学生は流通科学部のマキネス講師に、多読教材の選び方について助言を受け、10名中9名がLevel 2、1名がLevel 3の本を選択した。なお、学生は多読教材 *Macmillan Readers* の存在を知らず、本学図書館の資源が十分に活用されていない現状が浮かび上がった。

読書感想文の提出後、流通科学部内で予選を行った。本番同様にプレゼンテーションと質疑応答を行い、学生投票により候補者を絞り込ん

だ。この過程で明らかになったのは、感想文で深い考察を書いている学生が必ずしもプレゼンテーションで聴衆を引き付けるわけではないということである。学生の個性や能力は多様であり、各々の能力を認め評価することが学生の自信につながる。英語の本を「読める」という自信や達成感が、学生の多読を通じた自発的なアクティブラーニングにつながるように、今後も指導を続けていきたい。

10月7日（土）のプレゼンテーションには66名の学生が集まった。投票の結果、1位と2位は同率13票、3位は12票であった。1位は食物栄養学科1年生、2位と3位は流通科学部2年生となった。一次選考を突破して参加した8名のプレゼンター全員に、図書カードが贈呈された（1位：3千円、2位：2千円、3位：千円、残り5名：5百円）。

4. スチューデントジョブ制度を活用した洋書・洋画紹介コーナー

本取組みの一環として、平成30年1月、中村学園大学図書館2階の特設コーナーにて語学図書コーナーを展開した。3.で述べたとおり、学生に図書館の蔵書を十分に周知できていない現状がある。そのため、先のプレゼンテーションコンテストで得た学生の読書体験をポスターやポップにして、図書館内に掲示するイベントを開催した。現在では閉架となっている洋書等を図書館の高田推進役（当時）ほか職員の協力のもと、期間中は目立つ場所に設置させていた。

本活動を学生のアクティブラーニングの場とするために、スチューデントジョブ制度を活用し、有志を募った。洋書、洋画、電子ブックを紹介するポップとポスターは、池田ゼミの2年生10名がボランティアで作成、掲示に係る作業はスチューデントジョブ5名が担当した。

選書に当たっては、図書館職員の協力を仰ぎ、図書館ツアーを行った。学生は子供の頃に親し

んだ絵本の原書や、映画で見た『ハリー・ポッター』、テレビで見たアメリカのドラマ『トワイライト』、そして日本の漫画『ワンピース』や『デスノート』の英訳等に興味をもった。そのほか『留学ジャーナル』『イングリッシュジャーナル』等の雑誌を選択した学生もいた。ほとんどの学生が、これらの本がどの書架にあるのかを知らなかった。学生は自分が選んだ図書や、英語教員（津田、池田）の推薦図書のポップを製作し飾り付けた。

語学学習特設コーナーでは、流通科学部の学生が読んだ電子ブックの紹介をパワーポイントで作成し、ポスターとして掲示した。さらに、語学カフェやグローバル広場の語学リーダー（英語、中国語、韓国語）からそれぞれコメントをもらい、書架の上に掲示した。

学生は活動を通して、図書館の蔵書や語学に関連する教室外での学びの機会について改めて情報を得たようである。図書館の蔵書が学生の目に留まるような取組は現在でも行われているが、報告書の最後に添付する武庫川女子大学の図書館の取組写真等も、今後の図書館づくりの有益なヒントとなることを期待したい。

5. 平成29年度末における本学における図書館の問題点、改善点、授業での実践報告

一年間にわたる他学の図書館視察や多読セミナーへの出席を通じて、特に外国語学習の点からみた本学の図書館の問題点について、以下に列挙したい。

1) 蔵書の陳列が利用者目線になっていない。

今回、学生に洋書（絵本や漫画を含む）の陳列をさせてみて、多くの洋書が閉架となっており、ハリー・ポッターのシリーズのようなベストセラーも、一度も借りられていないことが分かった。

2) 図書館の中に学生同士がディスカッションできる場がない。

本学の図書館はブラウジングルームをのぞく

と、私語厳禁となっている。今回視察した大学のほとんどが、図書館の中に学生が本やPCを持ち寄りディスカッションできる、ホワイトボードのあるガラス張りの小部屋を複数用意していた。図書館がアクティブラーニングの場となるためには、話ができるスペースが必要である。

6. 本取組後の図書館の活用

当プロジェクト班では「平成29年度教育改革支援制度報告書」において、今後、現有の図書やスペースを活用して、図書館を活性化する提案をした。

- 1) 授業やゼミと連携した図書館イベントの開催
- 2) 多読図書コーナーの設置と学生によるPOPの作成

これを受けて、図書館では蔵書の陳列が利用者目線に変えられ、図書館内2階の一角に学生同士がコンピュータ（N-Note）を持ち込んで、自由にディスカッションする「ラーニングスペース」が設けられた。（写真⑮）これにより、各学科の授業と連動した図書館利用において、以下の成果が見られている。

流通科学部流通科学部では、従来から1年次対象の「アカデミックリテラシー」で、図書館ツアーを実施していた。学生は4階の学術情報演習室に設置されたPCを利用して、蔵書検索の仕方を学び、専攻に関する図書を選び、レポートを提出していた。2018年度以降は、談話可・飲水可となった2階の「ラーニングスペース」に学生必携のN-Noteを持ち込むことで、図書館課員による講習および学生の検索が、より充実した。なお、平成29年度以降の新カリキュラムでは、「スタディスキルⅠ」の授業で同ツアーを行っている。

栄養科学部栄養科学科（総合基礎英語）およ

び短期大学食物栄養学科（英語基礎）では、英語の自学自習に向けた「図書館ツアー」を導入しており、2つの課題、①英語の絵本、Graded Reader、英語漫画を選び、和訳、②図書館内の洋画を視聴し、英語でプレゼンテーションに取り組んでいる。また、実用栄養英語B（栄養科学部栄養科学科、フードマネジメント学科）では、図書館で「情報検索講座」に参加し、図書館内のフリースペースでグループごとに「世界の食文化」についてリサーチし、グループプレゼンテーションの準備をしている。令和元年の新入学生からN-Note 必携になったため、図書館内でのアクティブラーニングが容易になった。

付録

Extensive Reading

Tom Caton (21 February 2018)

What is it?

In very simple terms Extensive Reading (ER) is reading as many easy books as possible for pleasure, and can be contrasted with intensive reading which is the slow, careful reading of a short, more difficult text. Many language researchers including Day and Bamford (1998), Day (2002), Prowse (2002), and Waring (2011) have identified a number of important characteristics of ER and the role it can play in language learning:

1. Language learners should be encouraged to read as much as possible as quickly as possible. Choosing from a wide variety of texts, reading speeds are typically 100-200 words a minute.
2. Texts are well within the language

competence of learners with rates of comprehension approaching 98%. Texts are carefully graded according to ability level as too much unknown language can prevent learners from reading quickly and fluently.

3. Learners have an increasingly wide variety of genres and topics to choose from. Graded texts are now produced by most major publishers, widely available and number in the hundreds.

4. The purpose of reading focuses on pleasure, information and general understanding and texts are usually chosen by learners and not teachers. As reading becomes more compelling and engaging learner motivation increases.

5. Reading takes place silently and individually with learners seldom using dictionaries. There are no exercises, no questions and no tests. Reading becomes its own reward.

6. The role of the teacher is to explain goals and procedures at the start and then monitor and guide learners throughout their 'reading journey'. They act as a role model, and an expert reader, who participates with them.

What are the benefits of Extensive Reading (ER) ?

Research evidence reveals the many benefits which come from ER including improvements in learner autonomy, vocabulary general and world knowledge,

writing skills and motivation (Waring 2006, 2011). Reading is, by its very nature, a private, individual activity which can be conducted outside the classroom. It is an excellent way of developing learner autonomy as readers can start and stop at will, and read at the speed they are comfortable with. In places where there is little contact with the target language reading is the most readily available form of comprehensible input, suiting learners' individual needs and levels and offering them massive and continuous exposure to language. The benefits of ER extend may beyond simple reading. There seems to be a general spread of effect from reading competence to other language skills including writing, speaking and grammar use (Day and Bamford 1998: 32-39). Vocabulary knowledge, in particular, is consolidated and extended by ER. New words are rarely learned through a single exposure. ER allows for a repeated number of encounters with words and phrases in context which can make the deduction of meaning of further unknown items easier. The fact that learners meet more language through their reading experiences can perhaps help prime the human language acquisition mechanism and enable the production of similar ideas and concepts in both in speaking and writing. So reading copiously seems to benefit a range of language skills, not just reading.

Younger learners may have a rather limited experience and knowledge of the world both cognitively and affectively. ER can help expand this knowledge by

offering a wide choice of materials to choose from to create and sustain their interest. In this way a virtuous circle can follow - success leading to success - which ensures that, as learners realise they can read successfully in a foreign language, they are further encouraged to read more. This will have a remarkable effect on self-esteem and motivation and can fuel the compulsion to find out more on a specific topic such as global warming or to go on and read the next Harry Potter book.

Conclusion

There are many benefits of ER in language learning including gains in reading and writing competence, oral and aural skills, vocabulary growth, and an increase in motivation. However, some problems remain including the pressure on teachers to conform with existing syllabi and textbooks and an unwillingness to adopt a more 'hands off' approach to teaching. It may also be difficult to keep learners challenged enough to read more difficult texts as time continues. Ensuring an adequate amount of compelling reading material for learners and providing information for teachers about the use and advantages of ER can certainly help. But perhaps the most important factor is that teachers need to realize how much influence they have on their students outside of their conventional teaching role. Nuttall famously said, "reading is caught, not taught" (1996: 229) implying that a teacher's attitude and behaviour will likely have a more lasting impact on students' education than mere technical

expertise. In short, ER teachers should themselves be avid readers and set a good example for their students by showing them what a good reader can be capable of.

References

Day, R. (1998) *Extensive Reading in the Second Language Classroom* Cambridge: Cambridge University Press

Day, R. and Bamford, J. (2002) *Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading in a Foreign Language* 14 (2)

Nuttall, C. (1996) *Teaching Reading Skills in a Foreign Language* (2nd ed.) Oxford: Heinemann

Prowse, P. *What is the Secret of Extensive Reading?*

<http://www.cambridge.org/elt/readers/prowse1.htm> (accessed 20 February 2018)

Waring, R. (2011) Extensive Reading in English Teaching in Widodo, H. & A. Cirocki. (Eds.) *Innovation and Creativity in ELT Methodology*

Waring, R. (2006) Why Extensive Reading should be an Indispensable Part of all Language Programmes *The Language Teacher* 30 (7) 44-47

Websites

<http://www.robwaring.org/er/>

<http://www.erfoundation.org/bib/biblio2.php>

English Fluency Through Watching Movies While Following Along with a Screenplay

Scott McInnes (29 May 2019)

A major problem students have when

wanting to pursue a course of studying English at home is maintaining interest in the material they have chosen. More often than not, students will select a typical English course book from the English language section of a local bookstore, without giving much thought to how long the text can keep their attention and interest. The reason for this is that many textbooks are very similar in design, dividing chapters into common themes found within most textbooks, i.e. greetings, shopping, eating in restaurants, etc. This lack of theme variety in textbooks prevents any longevity whatsoever to use the text as a viable source to improve one's fluency in English. Compounded with this is the fact that most students have in the past studied similar themes in textbooks in both junior and high school, which can accelerate how texts can quickly become stale, which in turn can disillusion the student to furthering their English studies.

One method of study I have found which has helped alleviate the above problems and can actually help to motivate the student even further in their English language studies is the use of movie screenplays which contain all the English dialog along with a thorough Japanese translation. Available at all major bookstores throughout Japan, there are hundreds of titles of very popular Hollywood movies that completely dissect and analyze all aspects of a movie-not only with just the language translation, but often contain comprehensive descriptions of cultural differences as well.

The obvious advantage of this is the student can get a complete understanding of a theme/ situation which at times exceeds the verbal boundaries. The benefits of the visual aspect, complete with gestures and nuances found therein, can promote faster and more complete listening comprehension. Most screenplay textbooks also include several photo stills of the movie, which also can help to keep the interest of the reader.

The key to making this exercise successful is that it is imperative to let the student choose the textbook for a movie that he/she has seen and enjoyed, after being exposed to the wide variety of titles available. In the past I have accompanied students to the local bookstore. Many are initially amazed at the vast amount of Hollywood screenplays available. No matter what the interest of the student is, almost everyone can quickly find a screenplay they are interested in. After purchasing the screenplay, the student will then need to buy the DVD, practically all of which can be found on Amazon. For students on a budget, most libraries, both university and public, have DVD's available to check out as well.

Another benefit of letting the student watch a movie along with the screenplay is that they can on occasion detect subtle differences in the video subtitles from those found in the textbook. Oftentimes, video subtitles are shortened, or in the worst case sometimes completely wrong due to an inability to convey the cultural differences found in the scene. When this happens, the accompanied screenplay text becomes an invaluable source for learning cultural differences as well.

In summary, in my experience I have found that the use of movie screenplays can be an invaluable way to learn English over an extended period. I have seen positive results from my students at all levels who have studied English using screenplays, and have received many comments from students who plan to continue to incorporate screenplays in their future studies of English.

References

- Klinger, W./Suzuki, T. *Screenplay: The Devil Wears Prada*. FOURIN, Inc. 2008.
Singer, R./Dixon, L. *Screenplay: Mrs. Doubtfire*. Screenplay Publishing Co. LTD., 1996.

武庫川女子大学図書館の取り組み①～⑧

(写真使用許可)



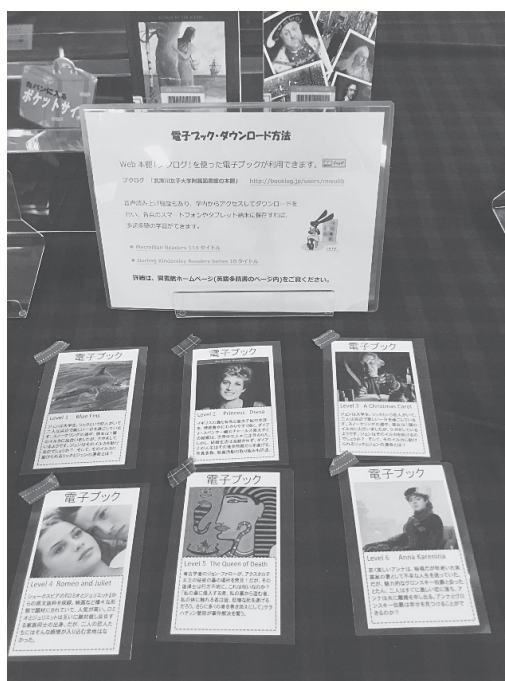
①図書館スタンプラリー



③多読教材の紹介



②多読教材に特化した書架



④電子ブックとダウンロード方法の紹介



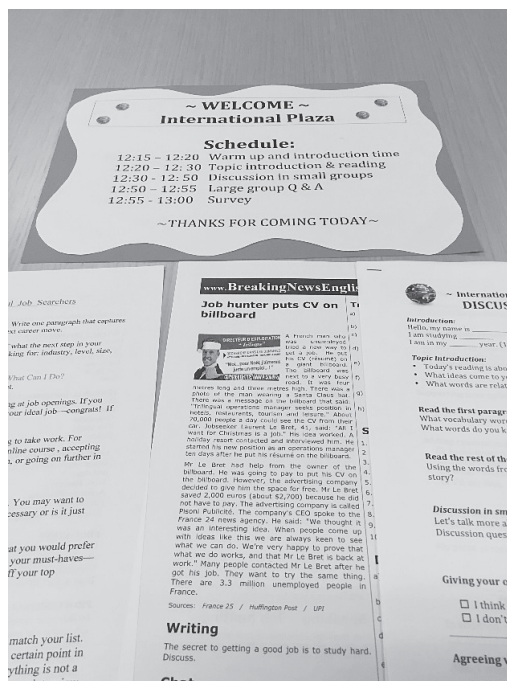
⑤テーマごとの図書の紹介



⑦資格サポート窓口



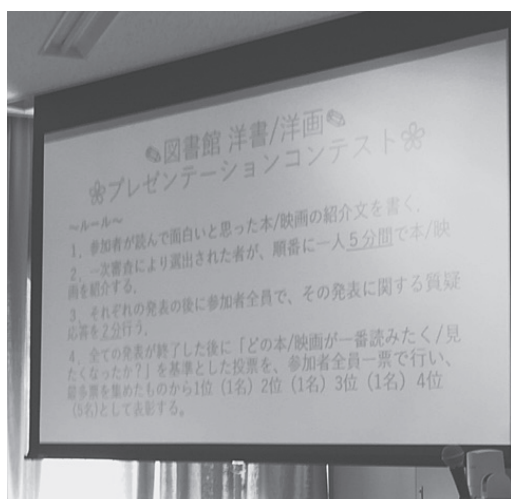
⑥視聴覚コーナーでは投票も



⑧インターナショナルプラザの案内

中村学園大学における本プロジェクトの取組⑨

～⑮



⑨洋書 / 洋画プレゼンテーションコンテスト実施方法の表示



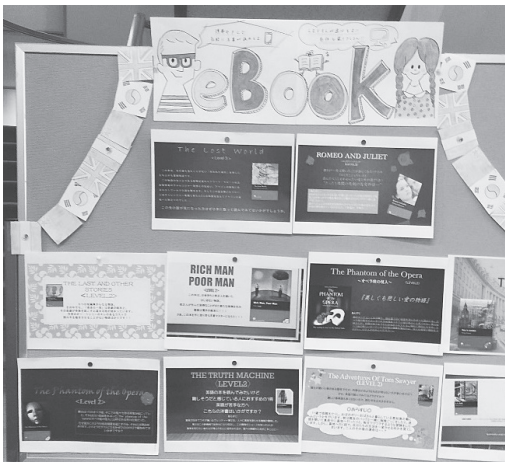
⑪ *Harry Potter and the Philosopher's Stone* (洋画) の紹介



⑩ *The Truth Machine* (電子ブック) の紹介



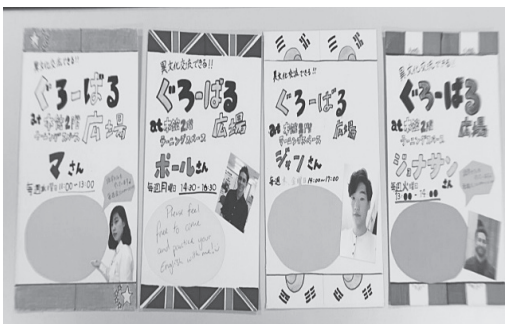
⑫洋書・洋画・語学図書 特設コーナー設置



⑬電子ブックの内容紹介



⑮図書館内に新設された飲水・談話可能なラーニングスペース



⑭グローバル広場 / 語学カフェ /
語学リーダーの紹介

i 「ラーニング・コモンズ」は日本の大学で近年、一般的になった学生のためのアクティブラーニングのための場所であり、英語では learning center/centre が、より一般的。